

システム監査学会2015年度第29回研究大会

共通フレームをベースとした
システム管理基準検討
研究プロジェクト
の報告

2015年6月5日
城西国際大学
本田実

目次

1. 研究プロジェクトメンバ
2. 活動状況
3. 研究プロジェクトの背景
4. 研究プロジェクトの目的
5. 研究プロジェクトの検討範囲
6. 研究プロジェクトの作業手順
7. 研究プロジェクトの作業結果
8. 今後の課題
9. 今後の方向

1. 研究プロジェクトメンバ

氏名	所属	備考
朝倉 俊道	エムビーケーメタルソリューション株式会社	
大島 誠	みずほ情報総研株式会社	
久山 真宏	株式会社ラック	
高野 美久	NECソリューションイノベータ株式会社	
本田 実	城西国際大学	研究プロジェクト主査

2. 活動状況

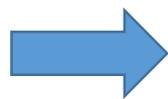
- 2014年度は8回開催(2012年度から23回開催)
時間は18時半から20時半
- 場所は城西国際大学紀尾井町キャンパス
- メンバは現状5名
- 活動は月1~2回開催予定

3. 研究プロジェクトの背景

- システム管理基準が作成されてから9年経っていて、必ずしも最近の情報システムの監査のための管理基準としては十分とは言えなくなっている。
- 平成16年作成のシステム管理基準を参考にした共通フレーム（「共通フレーム2007」）が平成25年3月に改訂された（「共通フレーム2013」）。
- 現在、システム監査のISO化が検討されているが、JIS化には若干時間がかかるものと思われる。

4. 研究プロジェクトの目的

- 「共通フレーム2013」をベースとしたシステム管理基準の改定版の作成



■システム監査学会のHPへの掲載

⇒システム監査学会のHPのアクセス回数の増加

■システム監査技術者試験シラバスの見直し提案

⇒システム監査技術者育成に寄与

■システム管理基準改定案の提案

⇒システム監査業務のより実践的な判断基準に寄与

5. 研究プロジェクトの作業範囲

- システム管理基準の項目すべてに対して、共通フレーム2013のタスクを対応
- 共通フレーム2013のタスクを参考に、システム管理基準の項目の見直し

- 対象資料は以下の通り
 - ①「システム管理基準(平成16年10月)」
 - ②「システム管理基準解説書(平成17年4月)」
 - ③「共通フレーム2013(平成25年3月)」

6. 研究プロジェクトの作業手順(1)

- 作業手順は以下の通り

- ① システム管理基準の各項目(コントロール)と、内容的に同等の共通フレーム2013のタスクに対応付ける。
 - a. システム管理基準の各項目に共通フレーム2013のタスクが対応しないこともある。
 - b. 同一の共通フレーム2013のタスクが、システム管理基準の別の複数の項目に対応することもある。
- ② 共通フレーム2013のタスク番号順に並び替える。
- ③ 共通フレーム2013のタスクでシステム管理基準の各項目に対応していないタスクを追加する。

6. 研究プロジェクトの作業手順(2)

- ④ システム管理基準の項目を、共通フレーム2013のタスクの内容に応じて見直す。
- ⑤ システム管理基準に対応する項目がない場合、共通フレーム2013のタスクの内容より、そのタスクのリスクを考慮してコントロールを作成する。
- ⑥ システム管理基準の項目が、複数の共通フレーム2013のタスクに対応している場合は、共通フレーム2013のタスクのリスクを考慮してコントロールを作成する。

7. 研究プロジェクトの作業結果(1)

作業結果は以下の通り。

- a. システム管理基準にあって、共通フレーム2013にない
 - ・「I. 情報戦略」では20項目
例えば、「ITガバナンスの方針を明確にすること」に対応するアクティビティ、タスクはない。
 - ・「IV. 運用業務」では13項目
例えば、「入力管理ルールを定め、遵守すること」に対応するアクティビティ、タスクはない。
 - ・「VI. 共通業務」では23項目
例えば、「品質目標に基づいて品質管理の計画を定め、ユーザ、企画、開発、運用及び保守の責任者が承認すること」に対応するアクティビティ、タスクはない。

7. 研究プロジェクトの作業結果(2)

b. システム管理基準になくて、共通フレーム2013にあり、システム管理基準の各項目として追加

- ・「Ⅱ. 企画業務」では6項目

例えば、「2. 分析」に「ソフトウェアサービスの使用にあたってはユーザニーズとの適合性を検討すること」を追加

- ・「Ⅲ. 開発業務」では3項目

例えば、「2. システム設計」に「運用手順書及び利用者用文書を作成し、関係者の承認を得ていること」を追加

- ・「Ⅵ. 共通業務」では13項目

例えば、「5. 5受託業務」に「提案依頼書に基づいて作成した提案書について責任者の承認を得ていること」を追加

7. 研究プロジェクトの作業結果(3)

c. システム管理基準になくて、共通フレーム2013にあり、各項目の着眼点に追加

- ・「Ⅰ. 情報戦略」では2項目
- ・「Ⅱ. 企画業務」では4項目
- ・「Ⅲ. 開発業務」では12項目
- ・「Ⅳ. 運用業務」では4項目
- ・「Ⅴ. 保守業務」では5項目
- ・「Ⅵ. 共通業務」では2項目

7. 研究プロジェクトの作業結果(4)

- d. 共通フレーム2013にあるが、コントロールとして取り上げにくいもの
 - ・全部で16項目

8. 今後の課題

- システム管理基準と共通フレーム2013の用語の対応表
- 共通フレーム以外にもISMS、ITIL、PMBOK等も考慮が必要
- システム管理基準の基準項目の主語の明確化

9. 今後の方向

- 本研究プロジェクトは、平成26年度で終了。
- プロジェクトの成果物として、システム監査学会のHP等に掲載予定。
 - ① 共通フレームを考慮した「システム管理基準改定案」
 - ② システム管理基準と共通フレーム2013の対応表
- マイナンバー導入にあたっての留意点、コントロールに対応した監査対象ドキュメント、監査の視点などを検討し、本「システム管理基準改定案」を今年度立ち上げる予定の研究プロジェクトで、レベルアップしていく。

最後に

- ご清聴ありがとうございました。